

玄海町近くの^{だいよんき}第四紀火山について(資料図の解説)

<<佐賀県玄海町は^{かからしま}加唐島と^{きたはた}北波多の第四紀火山に挟まれた位置にあり、玄海町全域が処分場建設に不
適当な場所です。特に玄海町が文献調査を受け入れる前に、加唐島の事を国は説明すべきでした。>>

この資料は、原子力発電環境整備機構 (NUMO) 主催の「高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話
型全国説明会 (福岡市 2025 年 4 月 23 日開催)」で、北岡が説明するために作成・使用した資料です。
この資料の説明の前提として、第四紀火山の近くは最終処分場建設を避けるとの国の方針があります。
第四紀火山の近くは新しく噴火する可能性が高く、処分場が火山活動で被災する恐れがあるからです。
処分場の放射性物質が噴出物に混入して、原子力災害と噴火災害の複合災害になる可能性があります。
そのため国は「科学的特性マップ」で第四紀火山と火山の中心から半径 15 km を色分けで示しました。

資料の右上の図は科学的特性マップを転載したもので、玄海町付近は白色で火山の表記がありません。
資料の左上の図は「科学的特性マップ」の出典の「日本の火山 (第 3 版)」の地図からの転載ですが、
この地図にある J50 : 加唐島・J47 : 有田の第四紀火山は、科学的特性マップには掲載されていません。
科学的特性マップの作図方法に以下の説明があります。「最高標高点等を火山の中心と推定することが
妥当と考えられない火山 (58 火山) については、岩体の東西南北の広がり (分布) の中心点を作図によ
って求め、その情報を火山中心として使用 (なお、このうち約 200 万年前より古い火山 (15 火山) につ
いては、処分地選定調査時に考慮する必要のある事項として整理)」※「58 火山」に関する説明は省略
どうも、加唐島などの火山は上記 15 火山に該当して、科学的特性マップに掲載されなかったのです。
しかし、火山自体はあるので「処分地選定調査時に考慮する必要のある事項として整理」したのです。
よって、玄海町が文献調査に関心を示した段階で、国は上記の第四紀火山について説明すべきでした。
しかし、国は昨年 4 月、玄海町議会の原子力対策特別委員会で上記火山について説明しませんでした。
今年 4 月の玄海町長が参加された「対話を行う場」でも、上記火山について国は説明しませんでした。

資料の下図は玄海町近傍の第四紀火山と玄海町までの距離と、火山の情報の出典などを示した図です。
北波多は北波多村史に佐賀大の先生が現地写真や年代測定結果などを掲載しており、第四紀火山です。
^{からつ}唐津は第四紀火山岩体・貫入岩体データベースに収録されている火山です。どちらの火山も科学的特性
マップに掲載されていませんが、重要な事実なので国は玄海町などに上記の説明をした方が良いです。
玄海町は加唐島と北波多の火山に挟まれた位置にあり、玄海町全域が処分場建設に不適當な場所です。
冒頭の対話型全国説明会で国と NUMO の職員に加唐島などの火山について説明するか確認したところ、
これからは、玄海町で予定されている「対話を行う場」などで説明するとの回答はありませんでした。

(資料にある地図等の出典)

- ・科学的特性マップを構成する要件・基準別の地図 (個別条件図) の「火山・火成活動」
https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/rw/kagakutekitokuseimap/kobetsu.html
- ・日本の火山 (第 3 版) : 出版物画像 https://data.gsj.jp/gkan/en/dataset/gsj_map_1205
(この地図の解説は以下 URL の「日本の火山 (第 3 版)」を参照)
https://www.aist.go.jp/aist_j/new_research/2013/nr20130619/nr20130619.html
- ・第四紀火山岩体・貫入岩体データベース <https://unit.aist.go.jp/ievg/dger/db/QVDB/navi/kyu.html>